

◆2011年3月11日(金)午後2時46分頃東日本大地震発生

市民大学18期生は1年次修了パーティを目前に控え、打ち合わせを行っていた時期であった。

後日予定していた終了パーティは中止となった。

当日の所沢は震度5強の地震で交通機関はマヒ状態となり、通勤者の多くが帰宅困難の状況になった。

・3月15日、福島原発の事故による停電が発生、西武線は終日マヒ状態となった。



2011-03-15 停電による所沢駅の様子（終日混乱が続いた）・・・計画停電が始まった。

◆2011年大震災発生から6年3か月経った宮城県(一部)の被災地を巡った。

6月20日(火)、大宮から仙台まで、新幹線【はやて】で、駅からはレンタカーで各地を巡った。

以下に被災地・写真を掲載。

- 1). 仙台空港近くにある鈴木英二さん宅。津波で被災された1階は何もかも流され太い柱があるだけであった。この住宅は東日本大震災を後世に伝えるため所有者の意思で遺構として残された。後方には仙台空港の建物が見える。





2). 上記、鈴木さん宅近くに残った防風林・復興した堤防。津波被害にあった現場には献花が見られ、防風林も1部あるものの、何もかも流され広大な荒涼地となっていた。堤防は遥かかなたまで続いていた。



3). 荒浜小学校校舎・震災遺構として一般公開。鉄筋コンクリート4階建ての荒浜小学校舎には震災当時、児童や住民ら約320人が避難。2階まで津波に襲われたが、全員が屋上などに逃れて無事であった。小学校は海岸線から700mに位置していて、建物が立ち並んでいた住宅地は一面広大な荒地となっていた。







4). 石ノ森萬画館。旧北上川の中州に位置する当施設は震災時1階にあったすべてのものを津波で流されたが、犠牲者はいなかった。訪問した6月20日は休館日で中を見ることは出来なかった。



5). 仮設商店街、きぼうのかね商店街。震災の翌年に女川の復興を願い開設された商店街であったが、2017年9月の閉鎖が予定され、商店街とは名ばかりで閑散としていた。





6). 倒壊した女川交番・倒壊前の交番。鉄筋コンクリート造の2階建てで、1階が交番、2階が休憩室として使用されていた。現在でも満潮時には30 cmほどの浸水が見られる。



7). 復興著しい女川。高台には整備が進む住宅地、女川駅前には商業施設が開設

高台に復興整備が進む住宅地、駅前にはシーパルピア女川&ハマテラスのモダンな商店街が開設された。



8). 東日本大震災の悲劇、大川小学校

地震発生から約50分後、北上川を津波が遡上、河口から5 km離れた同校を襲い校庭にいた児童78名中74名と、教職員13名中、10名が犠牲となった。学校に隣接している裏山は僅か50m、授業でも登っていた山である。小学校の周辺は流され校舎だけが取り残されていた。大型バスでの来場者は多い。





## 9). JR 仙石線野蒜駅

被災したプラットホームは震災遺構として保存される。現在修復中である。

高台には新駅舎と新プラットホームがあり、2年ほど前に再開、駅前には住宅が建てられ復興が進んでいた。



